

大人の 社会見学

鹿屋の地で育まれた
名品・名産・名所などの
よかもんをご紹介します

笠野原 開発資料館



下高隈町5049
☎0994-44-8508



ナビゲーター
笠野原開発資料館館主
安藤 一夫さん



笠野原地かんがい
昭和37年(1962年)に完成された
笠野原地かんがいは、長年、農業用水の
確保に貢献してきました。この地かんがいは、
昭和37年(1962年)5月15日、国土建設
省(当時)から、国土交通省へ移管され、
国土交通省(当時)の管理下で、現在まで
運用されています。



竹管水道の貯水槽で使用した石材

市の農業を支える笠野原台地。今では豊富な水が確保されていますが、約90年前までは、農業用水はもとより、飲み水の確保さえままならない状態でした。そんな、笠野原台地における水源確保の歴史を後世に伝えるのが、笠野原開発資料館です。今回は、平成2年に資料館を自ら整備した、館主の安藤一夫さんにお話を伺いました。

「笠野原台地開発の歴史は、約300年前、江戸時代までさ



人力で水道用金属管を運搬

かのぼります。当時は牛や馬の力で、深さ60m以上の井戸から水を汲み上げたそうで、場所によっては、100m以上掘っても水源にたどり着かないこともあったようです。

明治時代後半には、竹で水源地から水運び、石造りの貯水槽に貯めて使う、延長約8kmの『竹管水道』が敷設されました。しかし、ようやく『水道』が敷設されたとはいえ、悪臭がひどく、飲むには向かない水だったそうです。

大正14年ようやく、金属管による水道敷設に着手、そして

昭和2年に、悲願の近代的な水道が完成しました。その喜びを先人たちは、『どこしえに恵の霧や潤わん笠野原は開け開け』と詠んでいます。

昭和37年着工の、国営第1号の畑地かんがい事業では、高隈ダム整備とともに、総延長680km・最大直径1.35mのパイプが敷設されました。資料館には、水の流れを制御する制水弁を展示しています(写真)。

この直径が最大0.7mですの
で、笠野原台地に敷設されたパイプの大きさが分かります。

笠野原台地の水源確保は、世紀を超えた歴史があり、それを残すのが私の役目です。資料館には、当時実際に水道で使った設備や、大正から昭和の水道工事の写真などを主に展示しています。ぜひご覧いただき、先人たちの苦勞を知っていただきたいです」